



No. 128

生協強化月間

障がい福祉事業

介護事業の

さらなる発展に向けて

秋冷の候、皆様お元気にお過ごしのことと存じます。

今年も、あと三ヶ月を残すだけとなりました。今年もこの時期、生協強化月間を取り組めます。

宮城高齢協は、一九九九年十一月二十日「宮城県高齢者生活協同組合創立総会」を経て、2000年一月二十五日付で法人認可され、介護保険事業を中心に、「寝たきりにならない」「元気な高齢者をもっと元気に」「一人ぼちの高齢者をなくす」を合言葉に、障がいがあっても、高齢になっても、社会の一員として自分らしく、地域の中で心豊かに暮らすために、ささえあい、共に手を取り合っていける社会を実現しようとして取り組んできました。

現在八か所の事業所と千二百名の組合員、出資金四千万円、職員五十

数名が働く生協法人として事業運営をすすめています。

昨年四月に開設した小規模多機能型居宅介護事業所「いろり庵こふし」は、少しずつですが利用者登録数が伸びています。この十一月で十六人の利用者登録となる見込みです。採算ラインまであと数人というところまでできました。「囲炉裏庵たかもり」でも利用者が毎月一人ずつですが増え、介護保険事業は堅調な兆しを見せています。

「放課後等デイサービス杜っこ」昨年度より利用児数が減り続け、この間有効な手立てを打ち切れていませんでした。宮城高齢協の六割を占めていた事業収入の減収による経営の圧迫は、依然として厳しい状況にあります。

しかし、障がい児福祉・介護とも支援を必要とする方は増えており、地域にはそうした要請やニーズは広がっています。私たちの支援やケアがしっかりできて安心をお届けすれば、必ず信頼され利用児、利用者は増えていくと確信しております。地域にしっかり関係性を築き、わたしたちの事

業を知らせて、多くの方にご利用いただけるよう引き続き取り組みを強めて参ります。

組員員の皆様には、三点のご協力とお願いを申し上げます。

- 一、新たに発行する「ささえあい組合債」のご協力 二年債(利率0.2% 単利)、五万円以上二万円単位
- 一、職員紹介放課後等デイサービス杜っこ職員および囲炉裏庵たかもり、いろり庵こふしの介護職員の紹介
- 一、出資金増資のご協力

現在の事業活動の安定的な継続を図り、障がい児福祉事業・介護事業のさらなる発展を期すために、「組合債」のご協力と職員のご紹介を、心からお願い申し上げます。

ぜひとも、皆様のご理解とご協力を願ひ致します。



丹野 幸子理事長

経営改善に向けて 損益分岐点の突破が当面の目標

◆経営改善会議に

30名参加

新年度に入り抜本的な経営状況は依然として厳しい状況下にあり、9月2日(日)経営改善全職員会議を開催しました。現在の困難な状況について共通理解の下、財務改善を自力で再建することを基本目標に、当面の緊急経営改善方針を提起しました。来年5月までを経営改善第一段階として財務改善をすすめます。抜本的な経営改善は、新たな事業構想を盛り込んだ中期計画を総代会で確認し、その執行を経営改善第一段階として進めていく方針です。

この質の向上をめざして 全職員の方で乗り切ろう

会議に参加した30名全員が発言。「経営収支の改善が何よりの優先課題である」、事業収入アップと職員確保に絞った「具体策が必要」とい

「提起された行動計画のよくなる員

体策が必要だ」「存続のため頑張りたい」「これからは進めるか、もつと話し合いが必要」「もつと現場のことを理解してほしい」「事業の縮小も場合によっては考えないと厳しい」「目標は理屈論ではなく職員不足で現場は大変だ」「この先不安を感じる」「もつとも職員紹介できない」「初めて参加したが他の事業所の事がよくわかった」など様々な意見が出されました。

オブザーバー参加の西俊雄(日本高年齢協会常任理事)から全国の高年齢22単協の内13単協が赤字であり、宮城の状況は連合会全体の課題であり「ケアの質」「運営の質」「経営の質」をどう改善していくか職員の知恵と創意を結集して、改善に取り組んでほしいと訴えられました。

職員をぜひご紹介ください

今回同封している職員募集のチラシをご覧ください。
「放課後等デイサービス社つこ」「四事業所の児童指導員、指導員」「困窮者支援センター」の介護職員の職員を募集しています。
職員から組口員の皆さま宛に、職員紹介のお願いの電話をさせていただきます。ぜひ、ご紹介いただける方がおられましたら、お知らせください。お手数をおかけいたしますが、よろしく協力をお願いします。

震災復興ツアーに 全国から41名参加

あいにくの雨模様の復興支援ツアーとなりましたが、今回は宮城県北部の気仙沼市、20日は若手県南部沿岸の陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町を訪れました。復興支援ツアーの意義と今後の継続を再確認する企画となりました。

1日目の気仙沼市立リアスアーク美術館見学は、参加者全員が震災時の遺構の一部や被災当時の写真展示に大変感銘を受けました。写真203点、収集被災物155点はじめ歴史資料1点1点に添えられた説明文



被災前のまちの模型の前で説明を聞いています

に込められたメッセージが、単なる資料説明ではなく、魂のこもったしポートでした。

美術館吉田学芸員から見学前の説明がありました。東日本大震災被災という重大な出来事を地域の歴史、文化的記憶として後世に正しく伝える災害対策事業に有効な資料として提供すること、そのため「伝える意志」と伝わる表現」を美術館のノウハウを駆使して実現するよう努力して

きたじぶが語られました。常設展示の被災コーナーをなぜ美術館が設けたのか、この説明でみなさんの鑑賞する気持ちにスイッチが入りました。被災現場から学芸員が綴ったレポートに、皆さん釘付けになっていました。

2日目の大槌町では地元の話の方のお話を聞きながら案内していただきました。

語り部川端さんのお話、涙する参加者も少なくありませんでした。

自らの体験を語りながら津波が来ても震災前からあった6メートルの防潮堤を超えることはないという町民の油断が、大きな犠牲を出してしまったという今回も強調されていました。2階建ての旧町役場で、住民の安全を守るべき町長以下職員が多数犠牲になりました。役場に集まった町の職員200名やMBCのスタッフが犠牲になり、町民の方は大変苦労されたそうです。被災証明証の発行は県内で一番遅れたそうです。

町議会で決定された旧庁舎解体を支持する住民と工事差し止めを求める住民の両方の心情に、心が痛むお話をしました。

事業所だより

○泉中央老人福祉センター

（仙台市指定管理施設） ～センター祭の～

10月4日～5日、「平成三十年度・センター祭」が開催されました。カラオケや詩吟・民謡・ダンスなどの演奏発表会と絵画・書道・俳句・手作りの品などの展示、また幸泉学園・ひまわりの家・すていじ仙台の出店ではアクセサリーやお弁当・玉こんにゃくの販売、宮城高輪協会の監事竹内信男さんが代表を務める「里山林豊元気村」からも新鮮野菜の販売があり盛り上がりしました。



カラオケクラブ 21 さんの合唱

つもほむつひつひつひのカーオケも全員での合唱や艶やかな衣装のフラダンスやフワンドダンスは圧巻で客席まで迫る勢いでした。また、会場から飛び入り参加のわか合唱団で、なつかしい童謡を来場者みなさんと歌って楽しみました。プログラム最後の抽選会は毎日8～2個の景品を用意し盛り上がり、2日間合わせて533名の参加でした。



フラダンスは教室、サークル全員が参加

新鮮野菜の販売



○ONSの庵(じぶ)

（小規模多機能型居宅介護事業所）
～敬老を祝つて会を行いました～

九月に敬老を祝つて会を実施しました。マジックショーと、美味しい料理、皆さんの楽しい交わりの時を持ちました。マジックの方々にも「一生懸命練習したかいがある。」と喜んで頂き、今年も定期で来て下さるじぶになりました。又、編み物や傾聴など定期的に来て下さるボランティアの方が増えて、活動も充実してきました。とても感謝しております。お近くにお越しの折はお立ち寄り下さい。お待ちしております。



泉中央老人福祉センターで活動するマジック愛好会さんの演技

じぶでは利用者さんの病院付き添いで同行した折に、ケースワーカーや病院スタッフの方にパンフを渡し

ながら、高齢協の紹介といるの庵こぶしの機能、役割について丁寧に紹介することをお心掛けています。最近、そうした案内が実を結び病院のケースワーカーさんからの紹介で利用登録に結びつく例がありました。まだまだ医療でも小規模多機能型居宅介護の機能が知られていません。貴重な紹介にスタッフ一同大喜びでした。

〇囲炉裏庵たかもり

〜新たな取り組み〜

10月より機能訓練の個別化を重視した取り組みを行っています。従来の囲炉裏庵体操に加え「ボール体操」を始めました。指でつまめる程の柔らかいボールを使用し、指を動かして「認知症予防」押し込み持ち上げたりで「筋肉トレーニング」を無理のない範囲で行っています。ふわふわなのでキックと抱くのが「気持ちいい〜」と癒しにも効果的なようです。体操の時間でなくともテーブル上でボールパスをしたり、ボールでまのひらき等、皆様それぞれお使い

い方もなれています。「興味のある方は一緒に体験してみませんか。新規利用者様が徐々に増えてきています。とても嬉しいことです。

〇高森社（こ）

〜敬老の日のお祝い〜

9月の敬老の日のお祝いとして、子供たちに型抜き・色付けをしてもらった紙粘土工作を貼りつけた「ポックスティッシュカバー」を作りました。紙粘土を薄く延ばし、星やハート、車といった様々な形の型を抜き、乾燥させてから好きな色を塗ってもらいました。中には餃子を作った子も…笑完成品はカプセルなタイルを木製のカバーに装飾し、出来上がり！訪問先の囲炉裏庵たかもり・いろり庵（こ）でも喜んでもらえ、笑顔の敬老会となりました。



敬老のお祝い、感謝の気持ちを込めて

【映画】

Workers (ワーカーズ)

被災地に起つ

被災地と今の二ホン元气にする“まちづくり”の物語
誰もが不安を抱えるいまだからこそ、
見えてくるものがある

高度経済成長の終焉から半世紀、急激な人口減少社会、ますます広がる貧困や格差は、否応なく私たちに様々な価値観の転換を求めています。そんななか起きた2011年3月の東日本大震災―それは、被災地のみならず、いまを生きる私たちに、改めて「これから、どう生きていくのか」という問いを投げかけました。本作は、これまで長きにわたり、競争、効率、自己責任…ではなく持続可能な社会への仕組みづくりを地域の人とともに模索・実践し続けてきたワーカーズコープ（協同労働の協同組合）による被災地（大槌・気山沼・巨理・登米）での取り組みの様子を記録したものです。

ナレーター：山根 基世
監督：森 康行
上映期間：11/23～12/6
上映館：チネ・ラヴィータ
前売券：1,000円
問合せ：本部事務局（022-727-6577）まで

【編集後記】

自民党の総裁選挙が行われ、現総裁が二選された。目指す憲法改正に向けた発言がメディアでも取り上げられている。その最たる狙いは「第九条」だ安全保障の観点から同盟国の戦争に自衛隊が参加できる「戦争法案」を強行採決し、「改憲」で自衛隊の明記を目指す。軍事力による緊張感ある平和―私たちはそんな平和を望まない。日本は、先の大戦で周辺諸国や自国民に多大な犠牲を払った。その反省から戦後、戦争放棄を明記した現憲法を施行し平和国家となった。私たちはこの憲法の理想を世界に知らせ広めること―この崇高な理想の実現こそ平和な社会を築くものであることを信じて、日本国憲法を世界に広めることこそ真の平和貢献ではないかと思ふ。